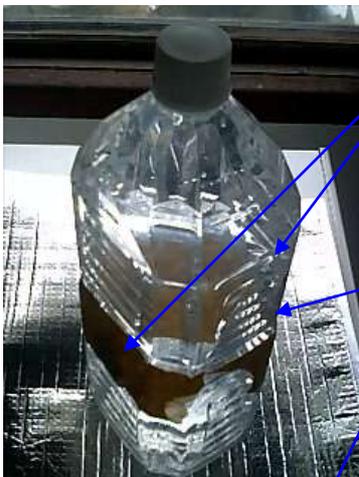


NN 対極磁場磁石を使った氷製造実験：,改訂3版平成24年4月15日

磁場で過冷却環境を作れるか、冷却コントロールが可能かの実験

周超音波研究所発行 URL <http://syuzou.awk.jp/>



永久磁石をお互いに反発するように（NNセット）

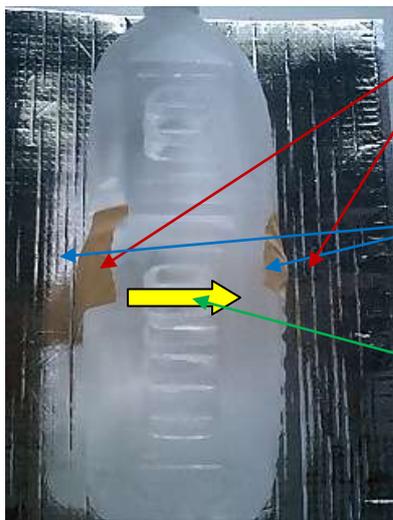
ペットボトルには水道水を充満しエア抜きを行っている

永久磁石をお互いに引き合うように（NS、またはSN対極セット）

-40度表示（実際にそれ以下の可能性あり）
にて普通冷却開始9月6日14時開始

マイナス40度環境静的冷却17時間後

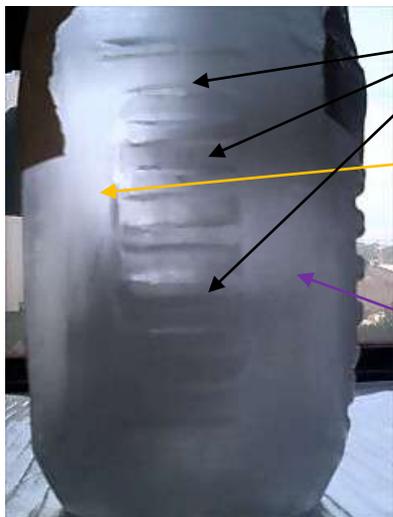
NS 純目方向磁場



S 極側

N 極側

コンパスはこのように指針

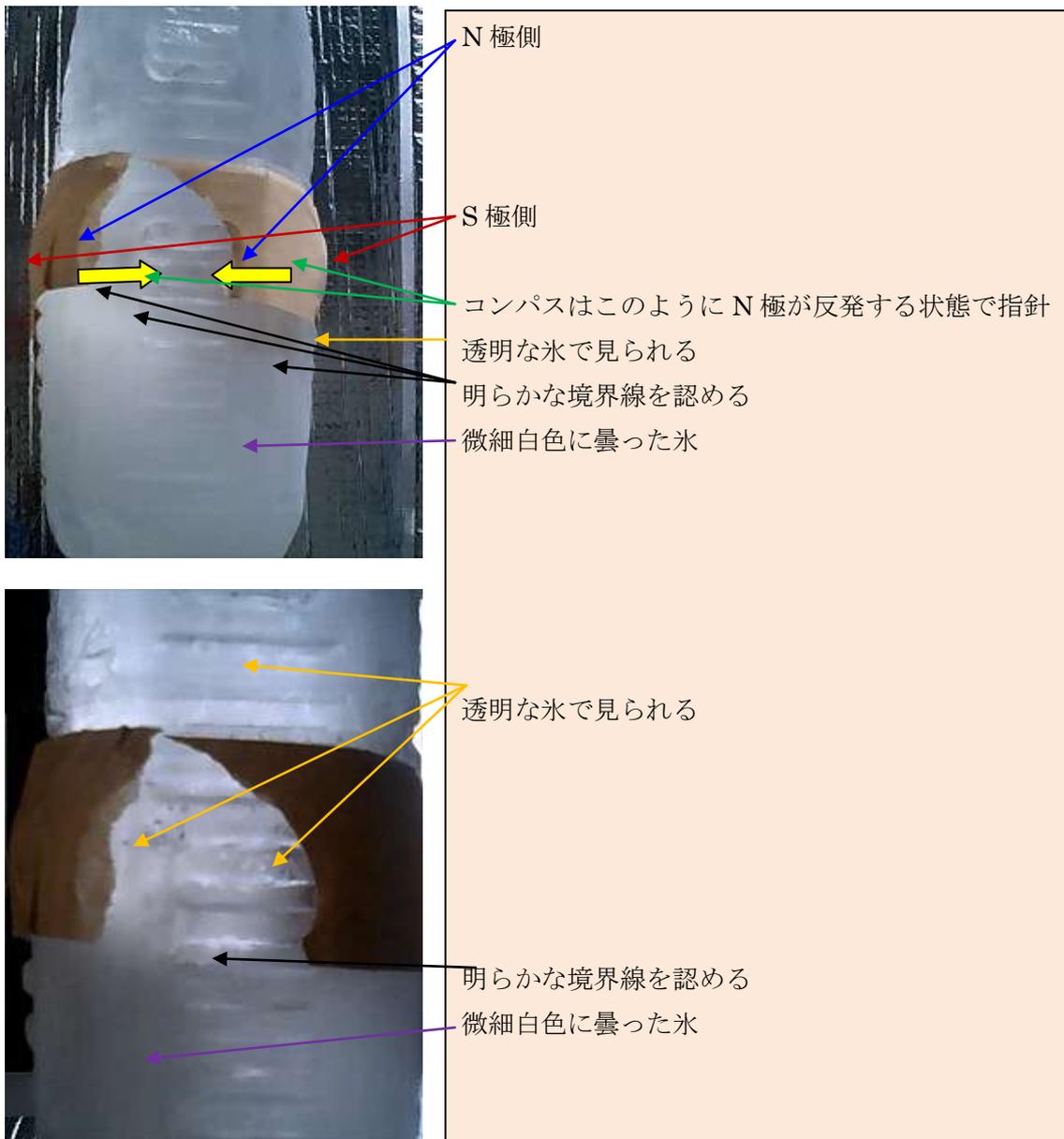


比較的直線的で明らかな境界線を認める

透明な氷で見られる

微細白色に曇った氷

NN 対向反発磁場



追加実験 2リットルペットボトルに水道水60パーセント容量注入しマイナス40℃静的環境において6時間後の観察

SS 対極磁場実験

S 極を引き寄せる

SS 対極磁場

氷の核を 2 Cm 径認める

透明な氷と水の境界

結露上昇を認める

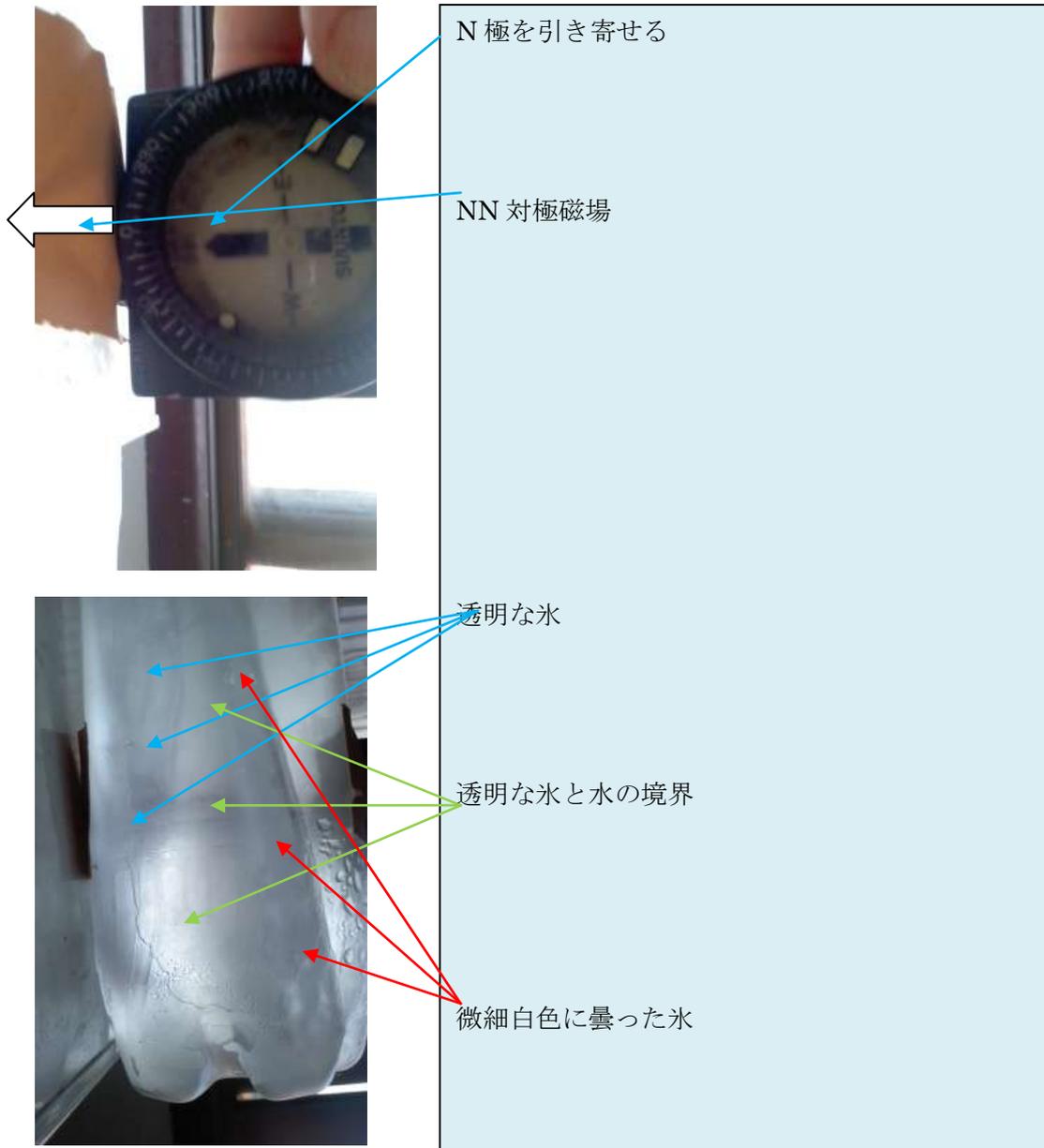
透明な氷

氷の氷結分離層を認める：磁力線の影響か？

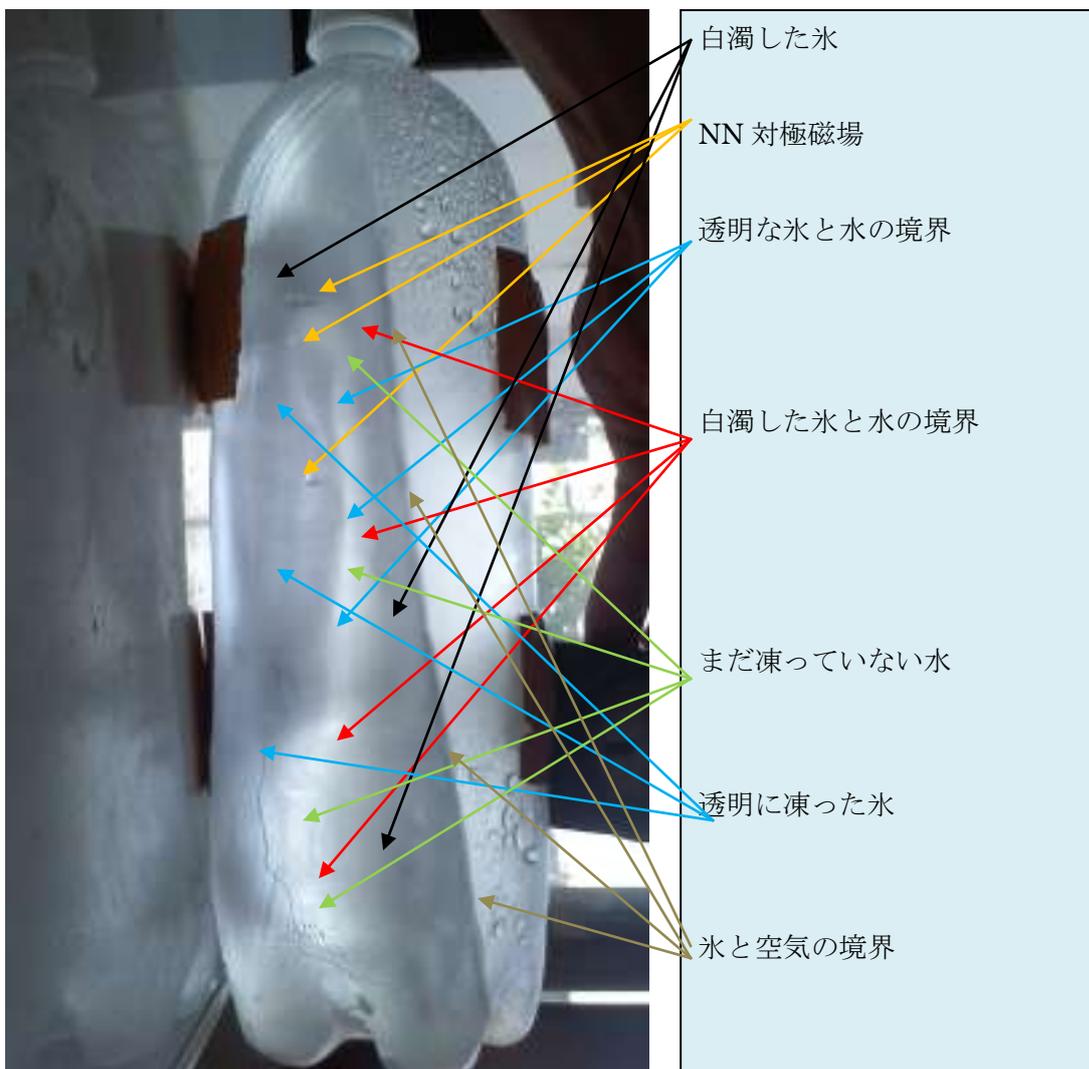
バブルを複数個内部に認める

追加実験 2リットルペットボトルに水道水60パーセント容量注入しマイナス40℃静的環境において6時間後の観察

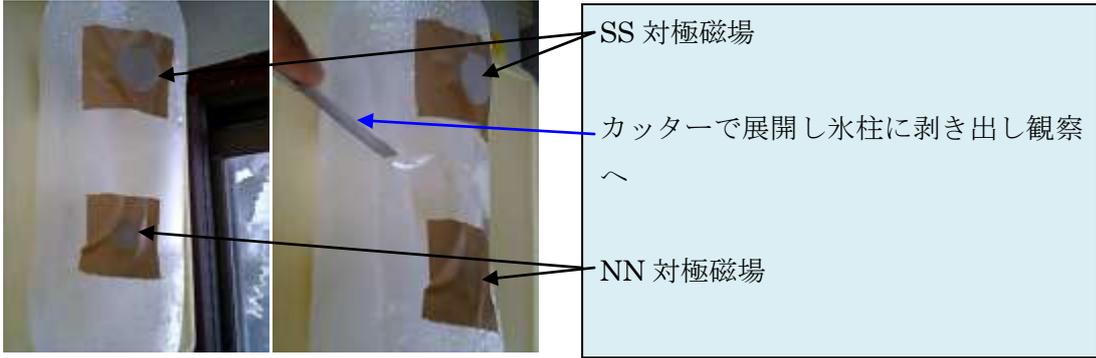
NN 対極磁場実験



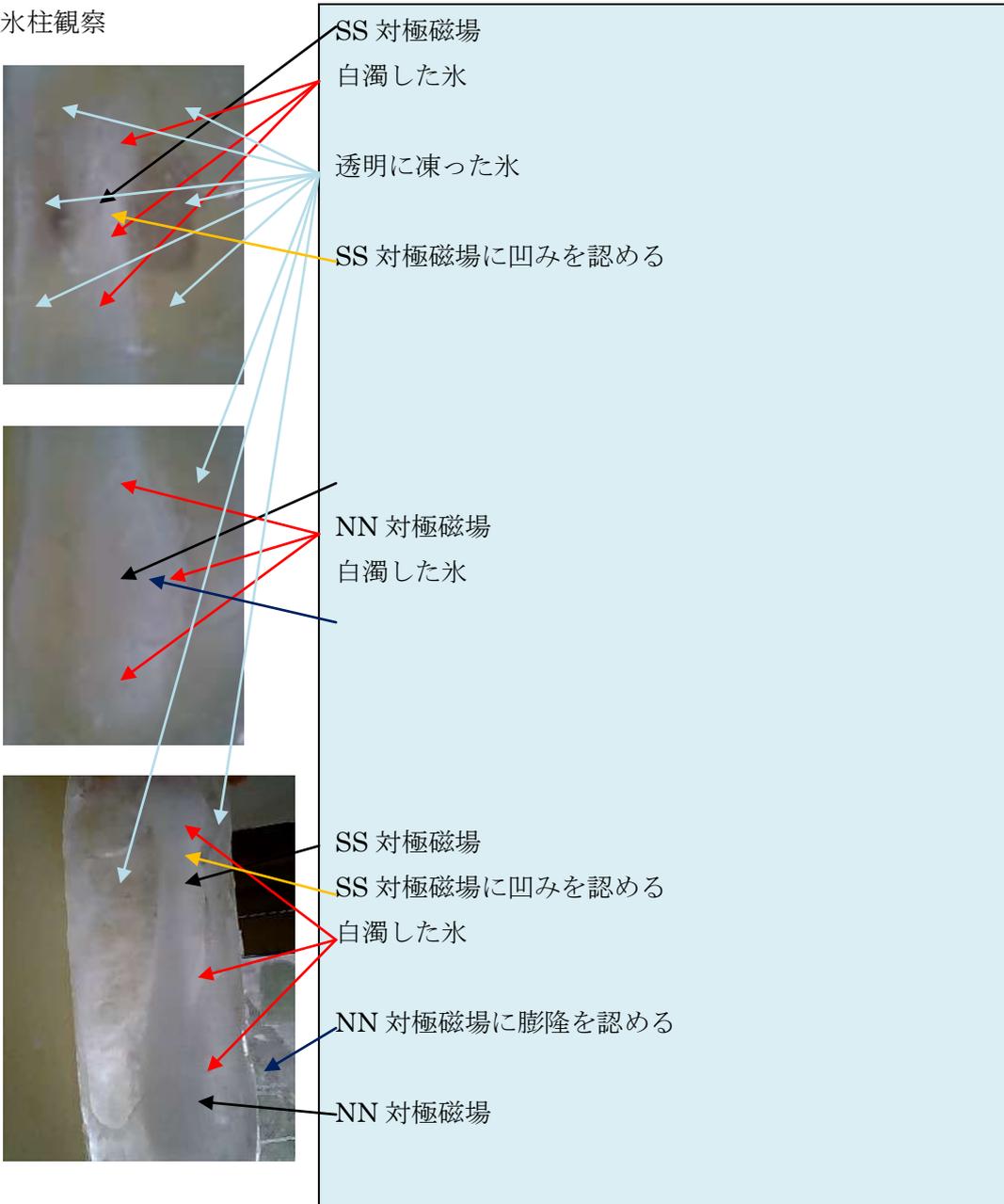
今回は1つのペットボトルに NN,SS をセットした。



72 時間後



氷柱観察



海洋深層水調合液 Gm0 の氷結特性検証

2011年11月24日発見の Gm0 方向性を持つ不均一氷結作用の記録

Gm0 500cc ボトルをマイナス40度環境下：地面に対して3本90度横置き冷凍庫内に粗雑配置で冷凍を行った：1本は斜め45度10度軸方向キャップ側上向き配置

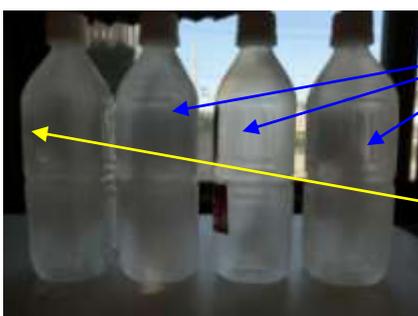


方向性を持つ隆起氷結



隆起している面は重力方向に対して逆で確認された

何故3面は平滑なのか、また4本注3本が全く同じ氷結になったのか現在不明



残り3面は形状整

斜め方向に隆起している。隆起の方向は重力に対して180度反対方向

2011年12月9日再実験

結果 重力と反対方向に方向性を持つ結果を得た

海洋深層水 Gmo と水道水における 1 MHz 超音波バースト波を照射したときのキャビテーション発生頻度の超音波 5 MHz B-モード観察実験

平成 22 年 6 月 11 日 周超音波研究所 新垣 周三

URL <http://syuzou.awk.jp/>

初めに

医療超音波診断装置を利用して液体を B モード 5 MHz 観察を行ったときに無エコークリアーで観察される。しかしペットボトルに入った状態で観察すると内部で点滅する高輝度境界面の発生が見られた。これは反射散乱波が干渉し発生したキャビテーション現象（空洞化）ではないかと考えた。海洋深層水 Gmo と水道水を B モード 5 MHz 観察を行ったときにそのキャビテーションの発生頻度に差が見られるかについて実験を行った。結果発生頻度や輝度に有意差を認めたので報告します。

実験方法

使用装置 本多電子製医療超音波診断装置 HS-1500

使用プローブ 5-7.5-10MHz マルチ周波数リニアプローブ

設定 中心周波数 5 MHz レンジ 40 mm 単フォーカス ゲイン 96 dB
ダイナミックレンジ 75 dB モニターガンマ r-1 設定

検体 サンプル a 株式会社アクアサイエンス製造 Gmo 調合液 2 リットルペットボトル
サンプル b 株式会社アクアサイエンス製造 2 リットルペットボトルに水道水を入れ替え

実験

1 写真に示すように密着を良くするためにゼリーをプローブに塗布しラップをかぶせた。ペットボトルは平滑な面がペットボトル 4 隅にありそこにプロ部密着させ観察開始。底面までの深度 11 センチ

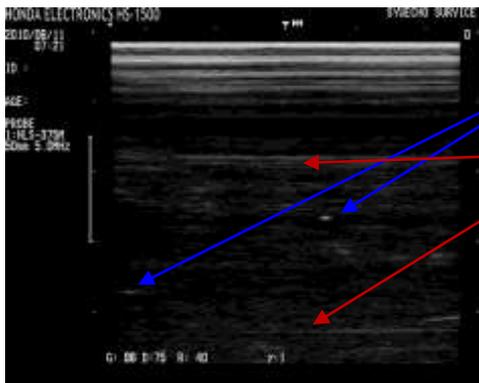


プローブにゼリーを塗りラッピング

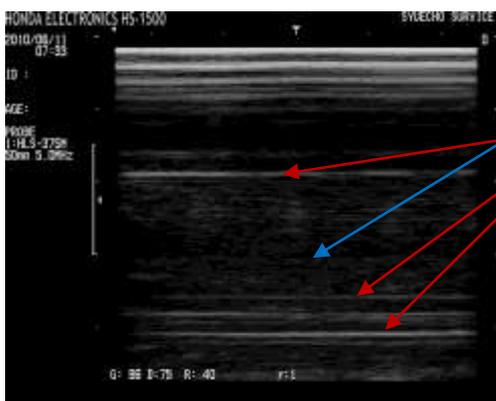
ペットボトル平滑面に密着観察

ペットボトル対角線状にビームを照射

超音波プローブを静かに密着観察、静的観察



高輝度信号が点滅して且つ移動して観察される
多重反射アーチファクト

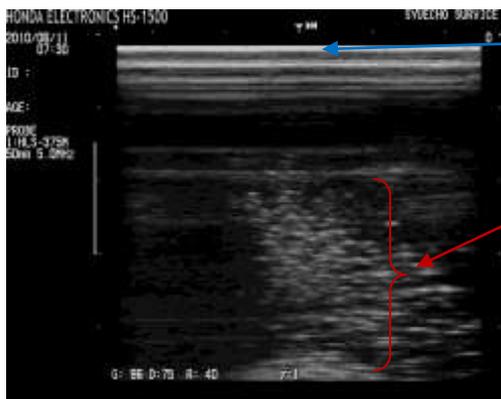


高輝度信号は高く発生頻度は低い
多重反射アーチファクトを明瞭に認める。水道水と同一場所に発生しているのでプローブビーム方向は同じ対角線状に照射観察したことがうかがえる

結果報告

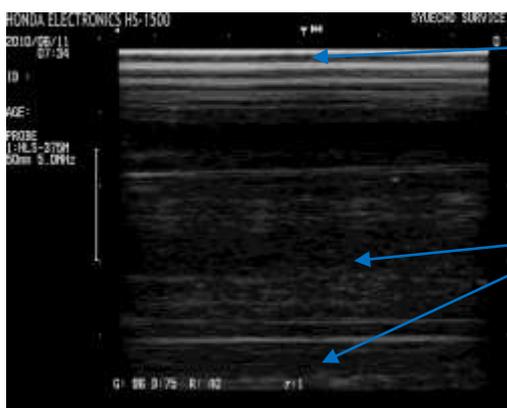
- ①水道水に比較して深層水 Gmo に明瞭な多重反射アーチファクトの発生を認める
- ②深層水 Gmo に比較して水道水にキャビテーションの発生を多めに認める
- ③水道水に比較して深層水 Gmo に明瞭なキャビテーション輝度上昇を認める
- ④水道水の点滅高輝度信号は、3mm前後幅のスリット状輝度で観察される
- ⑤Gmo の点滅高輝度信号は、1.5mm前後幅のスリット状輝度で観察され発生頻度は水道水より低く輝度レベルは水道水より高い

超音波プローブをポンピング密着観察、ダイナミックテスト観察



プローブ密着面はこちら側であり、プローブで振動を与えている

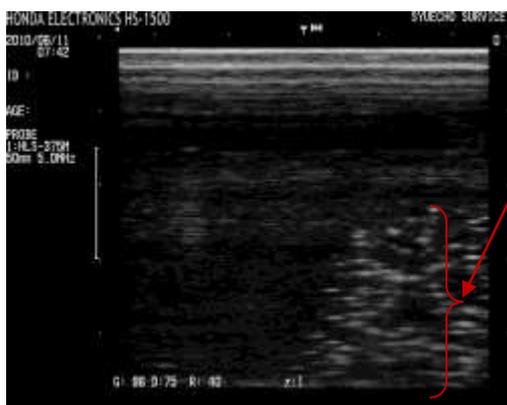
反対側（底面）より湧き上がるように発生したキャビテーションの渦が観察される



プローブ密着面はこちら側であり、プローブで振動を与えている

反対側（底面）に変化は感じられない
数回テストを繰り返したがキャビテーションの発生は認められなかった

再度水道水ダイナミックテスト



再度水道水に戻りダイナミックテストを行った。
キャビテーションの発生、湧き上がりは見られる

結果報告

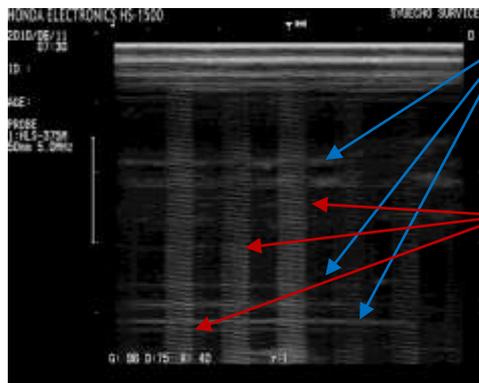
- 1 深層水 Gmo と水道水に超音波透過性に差がある
- 2 高輝度信号の発生は水道水に明らかに多く認める
- 3 水道水高輝度信号に比較して深層水の高輝度信号は小さく輝度レベルは強い
- 4 多重反射アーチファクトの輝度が深層水が高い
- 5 ダイナミックテストによるキャビテーションの発生頻度は水道水に著明に認める

結論 超音波で水道水と Gmo を識別可能である

その他の実験、

①超音波美顔器 1 MHz バースト波照射実験

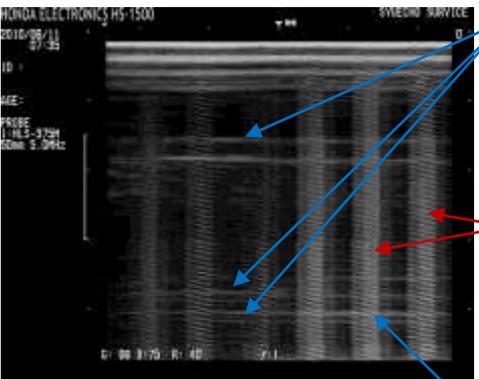
水道水



多重反射アーチファクト

バースト波を受信している

海洋深層水 Gmo

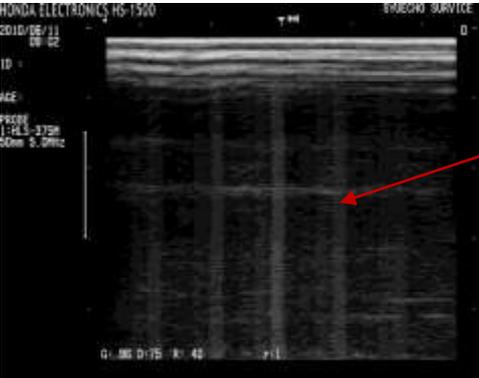


多重反射アーチファクト、水道水よりエコーレベルは高い

バースト波を受信している、水道水よりエコーレベルは高い

②超音波美顔器 1 MHz 連続波照射実験

海洋深層水 Gmo



バースト波は高輝度右傾斜縞模様を呈している

連続波は左傾斜縞模様を呈していてエコーレベルは低い

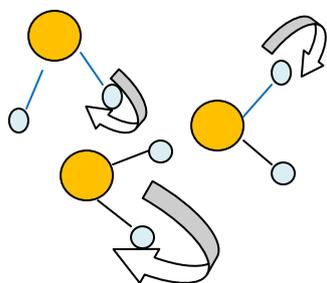
結果の推測

写真で見られるようにお互いのビームは直交して照射されています。私の推測では周波数の位相の状態により右縞、左縞模様と表示されたものであり、連続波とバースト波の違いによるものではなく、美顔器の照射周波数が異なる、つまりどちらかは1 MHz 帯域ではないのではないかと推測されます。結論はおそらく出せないでしょう

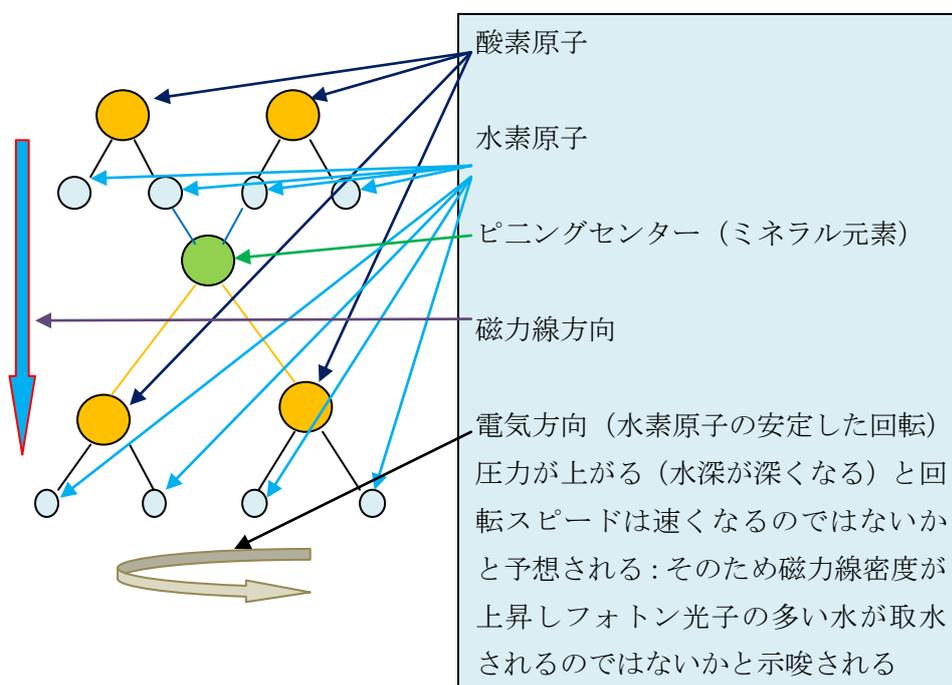
水のクラスタのマトリックス構造化

水分子

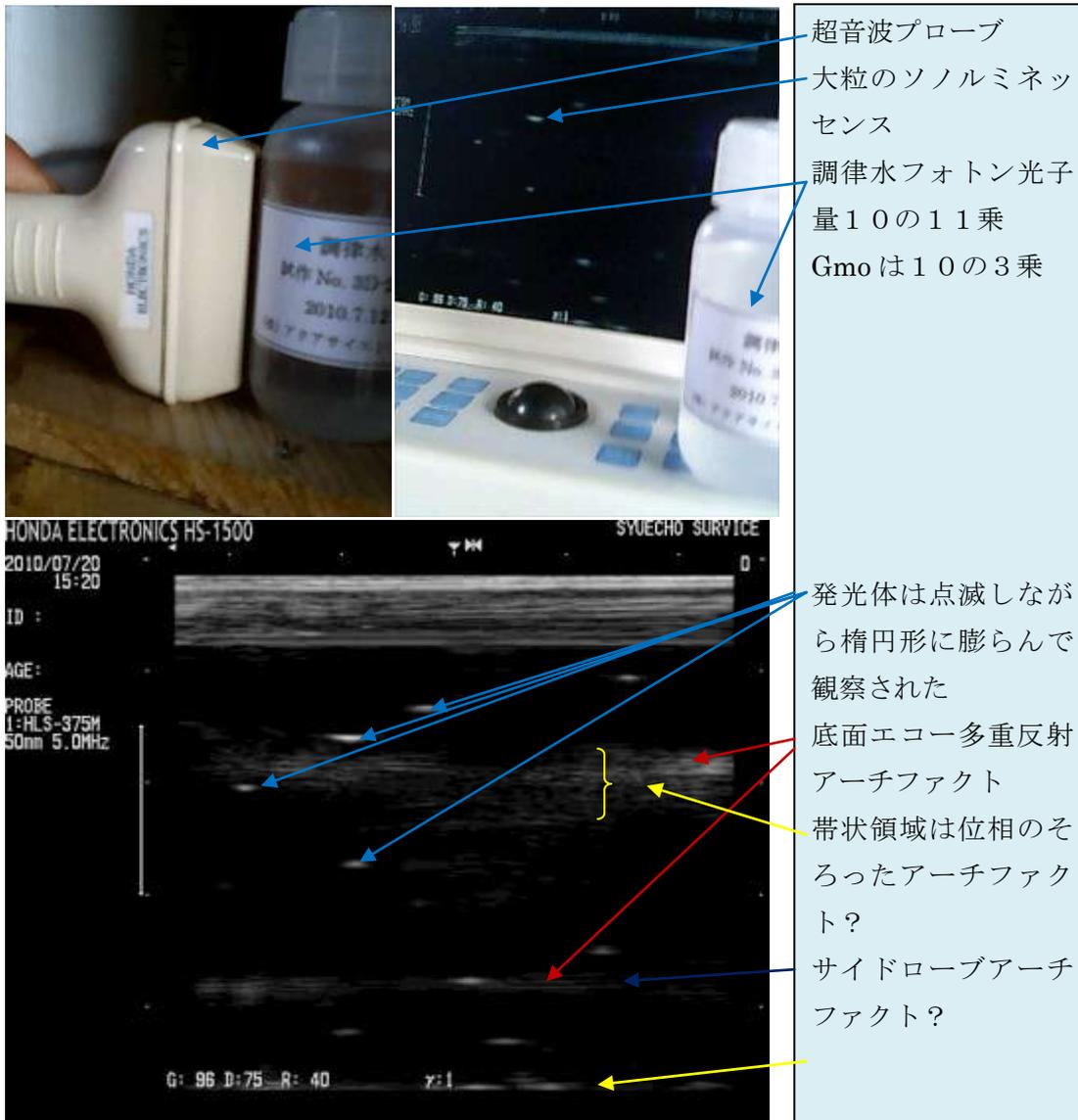
水分子は図のように水素と酸素の共有結合で構成され、水素と酸素に分かれた極性を持つ
水道水などの自由水はランダム極性の磁場であり電子双極線の位相は雑でそろっていない、
そのためフォトン光子も方向性が無く拡散しエネルギー順位は低い



海洋深層水は圧力により分子密度は高いいわゆるクラスタの小さいマトリックス化された極性の磁場であり電子双極線の位相はそろい磁束密度もそろいいわゆる永久磁石化した水と想像する。そのためフォトン光子も方向性を持ち周波数の同調されたフォトン永久に放出し周囲の水に同期し調律をそろえる。**Gmo** は表層水、中層水、深層水を調合して作られているので3種類のフォトン光子周波数を持ち合わせたハイブリッド調合と示唆する
またバランスの良いミネラルバランス、これを超電導理論で考えた場合ミネラル成分がピンニングセンターとなり、安定した磁場を作っているのではないかと示唆する。マックスウェルの方程式とくに磁場境界面の条件等で理解に近付く



調律水テスト



考察：キャビテーション時の発光レベルの強弱は水分子の結合力に対応しているものと示唆されます。発行が強い＝お互いの接合エネルギーが強いので、引き離されたときに大きな空洞化エネルギー（超音波の場合：波動エネルギー大、ルミネッセンスの場合静電気現象いわゆる雷のような発光現象）の発生によるものと考えられます。

サンゴ復活調査での写真集



2011年4月にセットした Gm0 たれ瓶は完全にサンゴと同化して見られる

褐色藻類が非常に密に繁殖している



藻を除去すると内部のサンゴは保存されていた（全く問題なし）



2011年9月にセットした調律水1万倍希釈用のたれ瓶はサンゴ優位で抱き込み繁殖と思われる石灰沈着が尻尾の部分で見られる（尻尾は完全にサンゴの一部に巻き込まれている）

周囲に褐色藻類はほとんど見られない

アオサを認めるが流れてきたものと示唆する（定着していなかった）



2011年9月にセットした調律水1万倍希釈用のたれ瓶はわづかに石灰沈着を認める

周囲に褐色藻類はほとんど見られない

2011年4月にセットした Gm0 たれ瓶は完全にサンゴと同化して見られ、完全にサンゴに埋もれているちなみにサンゴは5Cm程度成長して背丈幅が大きくなっている

2012年2月10日において調律水濃度と温度変化により ATP 回路の活性化や抑制をコントロールできるのではないかと示唆します



Gm0 と海藻用のボトルを並べて冷凍実験

方向性は変わりました

海藻用の成分に磁性体である鉄分の影響を示唆します。それに引きつけられる極性の変化を考察（磁石実験より推測）



調律水 1 万倍希釈用は従来通り垂直方向に隆起氷結しました

垂直方向に特異的な極性



再現性の確認のため追加実験開始

モル濃度の関係なのか氷結時間に遅れ（遅延）を認めた



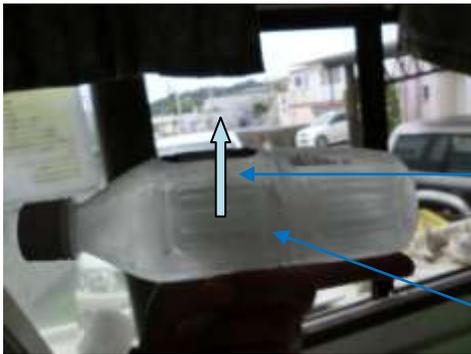
このようにセッティング

前回は液状：今回は異なり氷結状態にて実験



別に追加実験のセッティング

マイナス40度冷凍の佐丸のソデ烏賊御かしら：深層水氷冷持ち帰りなので品質は非常に良い



調律水1万倍希釈用は従来通り垂直方向に隆起氷結しました

中心部の核



海藻用調合液は方向性を認めない
中心部に核も見られない



追加確認



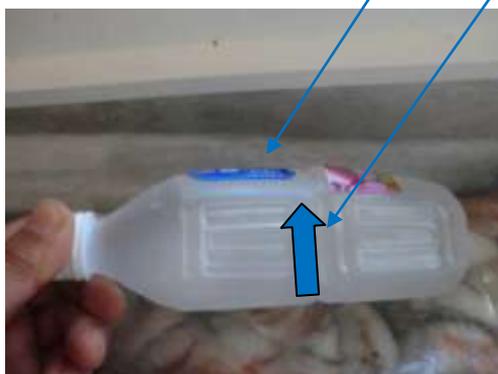
若干膨らんでいる

やや優位で膨らんでいる

特別に変化なし



Gm0 は従来通り垂直方向に極性を
(方向性)を持つ膨らみ方(氷結)



Gm0 調合液は性質的に永久磁石化された水と想定すると実験で確認された現象を解決できるのではないかと示唆されます。